

日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて
-日本の近代化を導いた人々の思想と行動、その光と影を追う-

世界の中の日本。科学文化の諸相に彼我の風土の違いを発見した人物
(Part II 科学・技術分野)

日本の天文学の近代化と

麻田剛立

講師： 嘉数 次人 先生

【講演要旨】

江戸時代の天文学者・麻田剛立(1734~1799)は、九州の杵築藩主の医師として勤めていたが、天文学に打ち込みたいという強い思いから、39歳の頃に杵築から大坂に出て研究に専念したという異色の経歴の持ち主である。同時に、18世紀の日本において非常にユニークな視点を持った天文学者であった。

古代から江戸時代末までの日本の天文学は、中国の天文学の考え方の強い影響を受け、毎年の暦を作ることや天文占いを主要な目的としていた。そのため研究者たちは、宇宙がどのような構造をしているのか、天体とはどのようなものなのか、などといった事に関心を持たなかった。そのような時代の中で剛立は、18世紀中ごろから日本に伝わりはじめた西洋天文学の影響を受けることになる。そして、西洋天文学の成果を利用した暦法の編纂に注力した。また剛立は、夜空に輝く天体の観察を通じて、月のクレーターの高さを推定したり、月食時に見える影の形から地球の地形について考察したりするなど、当時の天文学者が持たなかった近代的な視点で宇宙を見つめた。

江戸時代の天文学は、古代から続いてきた伝統的な考え方が、西洋天文学の流入と共に少しずつ発展・変化をした時代である。本講演では、麻田剛立の業績紹介を中心として、江戸時代の天文学の視点と、その発展の様子を概観する。

【講師略歴】

1965年、大阪生まれ。大阪教育大学大学院教育学研究科修了。大阪市立科学館学芸担当課長。専門は科学史。著書に、『天文学者たちの江戸時代』（ちくま新書、2016年）、『木村兼葭堂』（共著、思文閣出版、2003年）、『伊能忠敬測量隊』（共著、小学館、2003年）などがある。

日時： 2016年 **11**月**14**日（月）**18:00**～ 20:30

会場： **公益財団法人国際高等研究所**

参加費： **2,000**円（交流・懇談会費用を含む）

定員： **40**名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 「参加申込書」（裏面）によりお願いいたします

詳細： <http://www.iias.or.jp/public/goethe.html>

しめきり

11月9日(水)

必着

IIAS 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

ゲーテの会とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

第**41**回

満月の夜開く
けいはんな哲学カフェ

ゲーテの会



参加申込書

- 下記に必要事項を記入して、FAX 又は郵送でお申し込みください。
- E-mail でのお申し込みの場合は、以下の内容を記載してお申し込みください。
- なお、申込書記載の個人情報は、当会の開催ご案内等を行うために使用させていただきますが、外部に公開することはありません。

◆ お問い合わせ、お申し込み先 ◆

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

公益財団法人国際高等研究所

けいはんな「ゲーテの会」事務局

E-mail : goethe0828@iias.or.jp FAX : 0774-73-4005

第41回 満月の夜開く けいはんな哲学カフェ 「ゲーテの会」 2016年11月14日(月)開催		
お名前		
ご所属		
部 署		
役 職		
連絡先	ご住所	
	TEL	FAX :
	E-mail	

■ 会場案内

